地域サプライチェーン支援にあたっての着眼点（地域SCの変革に必要な機能・要素）

本着眼点の活用方法：地域SCに変革に必要な機能等が備わっているかを確認し、支援機関が地域SCに対し実施する面的支援の在り方検討に繋げる

1. 支援対象の特定

□ 支援の対象となる地域サプライチェーンの特定ができていますか

- 当該産業の毀損が地域に与える影響度を考慮し、支援対象となる地域SCを特定することが重要。
- 地域SCにおけるリーダーの存在や連携する地域支援機関の姿勢を考慮し、支援対象の特定が重要。

2. 地域サプライチェーンの可視化

□ 地域サプライチェーン企業群のサプライチェーン構造が把握できていますか

- 地域SCに内在するリスク及びその影響度の掌握には、SC全体の構造の俯瞰・可視化が重要。
- SC構造全体の可視化が困難な場合は、当該SCの本質的課題を把握している機関・キーパーソン等の存在を確認することが必須。

3. 共通課題（面的課題）の抽出

□ 地域サプライチェーンの構成員に共通する課題（面的課題）を抽出する仕組み（機会）はあるか

□ 地域サプライチェーンの本質的な面的課題について、SC関係者（企業・支援機関）で共通認識はあるか

- 暗黙知として理解される面的課題を、地域SC全体の形式知化（可視化）することが必要。
- 地域SC課題抽出には、明確なコンタクトポイント（ステークホルダー間で合意形成し、面的課題を抽出する場）の存在が重要。
- 支援機関等の地域SC外の機関の関与が面的課題抽出の端緒となる可能性。
- 面的課題の設定は、当該課題解決が地域SCを構成する各企業にメリットになる観点が重要。

4. 変革意識の醸成と解決策の検討

□ 地域サプライチェーンの企業群が、サプライチェーン構造等の変革の必要性を理解しているか

□ 変革の必要性を感じ、地域サプライチェーン企業群自ら自発的な動き（解決策の検討）があるか

- 地域SCの課題解決には、企業単独でなくステークホルダーを巻き込んだ面的な活動とするなど、地域SC側の変革等の意識醸成が必要。
- 支援機関による地域SC側の意識醸成を促す取組も重要。

5. 共通課題（面的課題）の解決

□ 抽出された面的課題について、地域サプライチェーンが一体となり解決する仕組みができていますか

□ 課題解決に必要な支援リソース（地域支援機関、国支援機関）との繋がりはあるか

- 抽出された面的課題を解決するためには、地域SCが様々な支援リソースを積極的に利活用することが重要。
- 支援機関は地域SCのコンタクトポイントとの日常的な接点持ち、必要なリソースを提供できる体制を構築しておくことが必要。
- 面的課題に対する解決策の実施→効果検証→（必要に応じて見直し）新施策を実施していくというサイクルが重要。